令和7年度　郷土を愛する心を育む教育についての取組　　佐賀県立致遠館中学校

〒849-0919 佐賀県佐賀市兵庫北四丁目1番1号
TEL:0952-33-0401　FAX:0952-34-1041
1学年3クラス（生徒数:約360名）

校名の由来

「致遠館」は、弘道館、好生館と同じく佐賀藩校の一つで、1867年に鍋島直正侯が長崎に設けた洋学けいこ所。「致遠館」での教育は、英語のほか理科、工業、経済、法制など時代の流れを見越した先進的な学問領域だった。ここで学んだ多くの若人が、海外に目を向け、新しい日本を動かす人物に育っていった。

「致遠」という語には、“志を遠大にする”、“遠方の人々を招く”、“遠くに致す（行く）”という意味がある。

その精神は、校訓「3C」に受け継がれている。

「先輩方と同じ音色を聴きたい！」カリヨンの鐘 復活プロジェクト

本校のシンボル「カリヨンの鐘」は、開校以来、本校のシンボルとして生徒を見守り、音楽で時を知らせてきました。
８年前に壊れたままの鐘を復活させる一大プロジェクトが、生徒によって始動！

【概要】

昭和63年度　開校時からシンボル

平成29年度　落雷の影響により故障

令和　6年度　カリヨンの鐘復活を公約に掲げた高校生徒会長が当選し、高校生徒会役員で鐘の歴史、故障の経緯、修理が進まない理由を調査。修理費用の見積もり200万円。

令和　7年度　プロジェクト発足
令和９年度致遠館高等学校創立40周年記念事業として寄付を募集（ふるさと納税・同窓会）
生徒会で受け継がれ、復活を目指して活動中。

開校記念講演会「SEEING is BELIEVING」

10月24日（金）の開校記念式典に合わせ、高校4回生の音成亜美様（旅館あけぼの代表取締役）をお招きしました。当日は、音成様の高校生活や海外留学、グローバル企業での仕事で感じた「百聞は一見に如かず」の大切さ、幼少期の佐賀の賑わいや背中を押してくれた恩師といった温もりある記憶から、「佐賀で子育てをしたい」「佐賀に恩返しをしたい」との思いに至ったこと、「ないもの」ではなく「あるもの」を強みにする発想の大切さについてご講演いただきました。

【生徒の感想より】

- 今まで「佐賀には何もない」「私にはなんの取り柄もない」などナイナイ思考で考えることが多かった。しかし、夢を叶えるためには自分の強みを見つけ、それを伸ばしていく必要があると感じた。
- 海外体験や仕事内容など、これまでの経験が意外なところで旅館の経営に役立ったとおっしゃっていて、やはり多様な経験をしているとタフになるし、物事を柔軟に考える力がつくのだなと感じた。
- 佐賀に生まれ育ったこと、大学へ行くことの意義や、これからの人生でどのようなことを大切にして生きていくかについて考えられた。

地域に貢献、社会参画へ　～総学、ボランティア～

総合的な学習では、「エリア・スタディ」として、中1は佐賀のことを調べ、中2は日本や社会の課題について、探究的な学習を行っています。

「バルーンフェスタ」の佐賀への影響を調べるためにバルーンチームにインタビューを行ったり、日本の「子どもの貧困」について考えるために子ども食堂のお手伝いに行ったりと、積極的にフィールドワークをしています。

ミシンボランティアを募って雑巾を製作。
今年は、中高合わせて30名ほどが参加して、約60枚が完成しました。保育園や高齢者施設に寄付する準備をしています。